



陸=海（リク・ウミ ウミ・リク）

石垣から成る風の集落

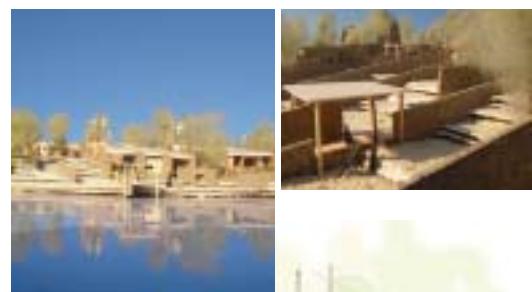
小倉 奈央子（おぐら なおこ）

日本大学 生産工学部 建築工学科



最近の沖縄では自然の美しさや暖かい気候、ゆったりとした時間を求めて移住してくる人が増加してきている。そのため、無神経な開発が進み、コンクリートの四角い建物で島が埋め尽くされてきている。そこで、沖縄の集落に詰まっているすてきな知恵と技術を生かして、沖縄の新しい風景となる集落を提案したい。

沖縄の集落を形成する石垣と、厳しい暑さの沖縄では欠かせない風に着目し、風の集落をつくった。集落の配置、住戸の中、エネルギーの面から風を取り入れ、風と共に生活していく集落にした。また、石垣は暴風壁になるだけでなく、高さを使い分けることによって空間をやわらかく分ける仕組みになっている。



講評

海から見た景観が実におおらかで、すでにその場所にあるかのごとく集落を感じさせる作品だ。プレゼンの導入部でもインパクトある写真を、海からの視点で見る人を引き付けた。きれいな砂浜に、竹ぼうきで、砂をなぞったような、流れるようなフォルムは、周辺自然環境から風の動きを

巧みに計算し捉えたものだ。

石垣は高さを変え集落の表情を作った。風の道は、陸風海風を巧みに利用した。風車は循環型環境共生に配慮。

この集落のシンボルになっていくだろう。沖縄の風土に調和した建築スタイルを、新しい風景「風の集落」としてまとめあげた作者に、天性のセンスを感じる。雨洗風磨

（審査員：信太 義晴）